

テーマは 「安らぎ」 地震への備えについて考えます。

安らぎ通信 NO. 1

## 平成28年5月の安らぎ通信



列島横切る巨大断層

「中央構造線」 熊本地震の延長上

九州～近畿 400年前に連続発生

地震は、九州を横切る「別府―島原地溝帯」を東に進みました。西日本を横切る長大な断層の連なり「中央構造線」の西端に当たります。中央構造線の周辺には並行して多くの活断層があり、地震の連鎖が広がるのではと懸念されました。

中央構造線は、全長1000キロメートル以上に及びます。九州から四国北部を経て紀伊半島にを横断。伊勢湾を横切り、天竜川に沿って北上して、長野県諏訪湖付近で本州の中央部を横切るフォッサマグナとよばれる巨大な地溝帯にぶつかります。

(2016年4月22日 日本経済新聞記事から抜粋)



あなたに価値あるホームページを [yamachuwood.com](http://yamachuwood.com)

山忠木材株式会社

大阪市大正区千島3-18-9 TEL 06-6552-0781

テーマは 「安らぎ」 地震への備えについて考えます。

安らぎ通信 NO. 2



強震連鎖 想定に甘さ 熊本地震 浮かぶ死角

部品供給網、維持に課題 型通りの「余震」発表

活断層上に「建築規制」を

迫る「南海トラフ」西日本は地震活動期

建物の耐震基準は、震度6強や7に1回耐えることを想定し、連続した揺れは考慮していません。繰り返す揺れに耐えられるような耐震基準の強化の是非に対する議論が必要。

学校の耐震化率は95%に達しましたが、庁舎は75%。

活断層上の建築規制を考える時と話す専門家も多いようです。徳島県などが活断層上の建築を制限する条例を定めました。

数十年単位で考えると西日本は地震の活動期だという地震学者も。

南海トラフ地震は西日本の太平洋沖で約100年ごとに繰り返し起きる地震です。中央防災会議は最大規模のM9になった場合、死者は最悪32万人、経済被害は220兆円規模と想定。

南海トラフ地震が起きる20～30年前から西日本で内陸地震が増えるという経験則。

活断層は、わかっているだけでも2000か所以上。活断層のうち「危険度が高い」のは、和歌山県の「中央構造線断層帯」、岐阜県の「阿寺断層帯」34カ所あります。

(2016年4月28日 日本経済新聞記事から抜粋)



あなたに価値あるホームページを [yamachuwood.com](http://yamachuwood.com)

山忠木材株式会社

大阪市大正区千島3-18-9 TEL 06-6552-0781